

やまゆり

学校だより

令和6年3月19日
98号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標 「確かな学力の育成」・「豊かな心の育成」

祝！ 3年生が「4名志望校に内定」、10名全員が第一志望に内定

3月14日に公立高校の後期試験の発表があり、「4名の志望校への内定」を頂きました。

既に6名の生徒が志望校に内定していましたので、「10名全員が第一志望の高校から内定」を頂きました。心に残る卒業式の後に、待ちに待った待望の瞬間がやってきました。今までの努力の成果が発揮され、目標をかなえることができました。おめでとうございます。

道志中学校で培った知・徳・体の力を生かして、それぞれの進路先で新しい目標をもって努力し続けて下さい。



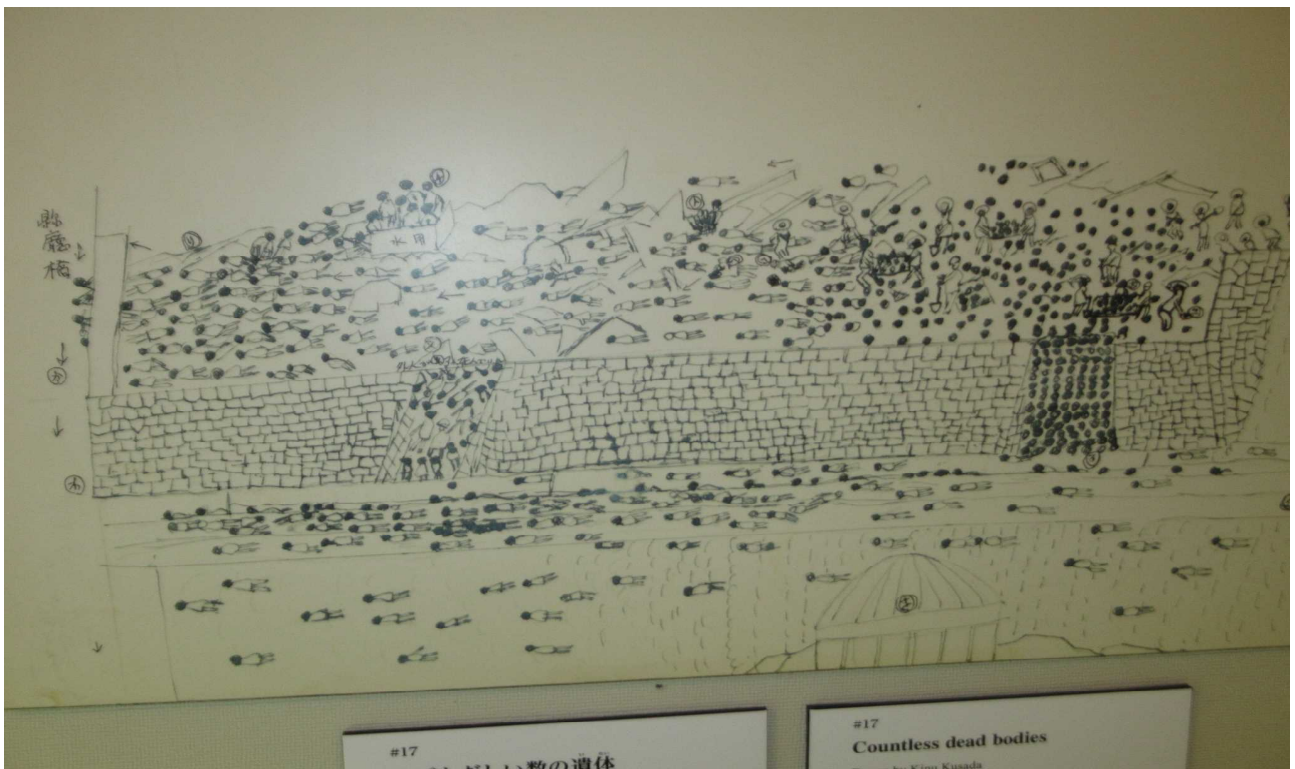
学校教育目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」 「豊かな心の育成」

原爆の悲惨な事実を、より良い人間の世界づくりに転化させる必要性

「日本人として忘れてはいけない事があります。」

昭和20年8月6日、8時15分17秒。ヒロシマの爆心地に一番近い小学校。それが本川小学校です。修学旅行の3日目に班別行動で目にした光景はまさに地獄そのものでした。当時、3年生以上の児童は危険なヒロシマを離れ、地方に「疎開」していたらしいです。しかし、小学1・2年生の約400名の児童が校庭や校舎内で遊んでいたと聞きました。校庭にいた児童は即死。校舎内にいた児童一人と教職員一人を除いて全員亡くなった事実を知りました。「一発の原子爆弾で、あの日広島市にいた約20万人が虫けらのように殺された事実を忘れてはいけない」と改めて強く感じました。亡くなった方々の命、思いや日常、家族や友人、故郷をも奪った戦争の惨禍を二度と繰り返さないように一人一人が努力し、より良い人間の世界を創造することに転化していかなければならないと強く思いました。

「本川小学校平和資料館」の展示 小学1・2年生約400名の遺体の様子 ※写真撮影可能



亡き友よ、
どんなにか、
熱かったろう
どんなにか、
痛かったろう
どんなにか、
苦しかったろう



本川小
平和資料館

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」 「豊かな心の育成」

今後も「身近な平和を創る」ことを決意した修学旅行

3月14日(木)～16日(土)まで、京都・奈良・広島を訪問し、「身近な平和を創る実践」をテーマに2年生が修学旅行に行ってきました。様々な感染症に対して教育委員会や道志村からも配慮して頂きましたが、参加者した生徒は全員無事に帰ってくる事ができました。安心・安全な旅であったことが何よりの「身近な平和づくり」を実践できたことの証だと思います。また、テーマに基づき、全員で他者への思いやりや配慮を徹底して実践し、一日の振り返りを生徒自身の話し合いでしっかりと行うことができました。3年生が卒業した後、2年生が新たな決意で、家庭・学級・学校の中で「身近な平和を実現することを自覚し決意した修学旅行」を創ることができました。

3月13日の結団式の様子



先生方の見送り



出発式・保護者の方々の見送り



富士急・JRの安全への努力と車内の平和づくり



京都での班別行動の2台のタクシー



ホテルに到着し、夕食の様子



1日目の成果と課題を明らかにする学級の時間の様子



3月15日 京都のホテル出発

担当者は外国出身 日本で挑戦!

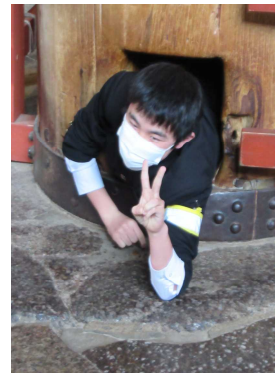
帝産観光バス



奈良での学習 東大寺での写真

観光ガイドさんから説明を聞く

桜之朗さん



神の遣いの鹿

法隆寺で記念撮影

バスガイドの濱砂さんから説明



法隆寺での記念写真

新大阪のホーム

広島に到着



平和について学ぶ学習は続く